

## カンボジア 工場労働者のための子宮頸がんを入口とした 女性のヘルスケア向上プロジェクト

Newsletter from SCGO-JSOG Project on Women's Health and Cervical Cancer

No. 20 June 2017

### カンボジア産婦人科学会主催「女性の健康セミナー」を開催

平成 29 年 6 月 16 日、カンボジア王国プノンペンのプノンペンホテルにて、カンボジア産婦人科学会主催の女性の健康セミナーが開催されました。カンボジア産婦人科学会(SCGO)の学会員 179 名、日本産科婦人科学会より木村正副理事長、阪埜浩司幹事長、藤田則子医師、松本安代医師、その他 JICA(独立行政法人国際協力機構)関係者、外国人講演者を含む総勢 188 名が参加いたしました。

JICA プロジェクトの資金を活用して、カンボジア産婦人科学会は昨年から学会員向けのセミナーを 6 月と 11 月の年 2 回開催するようになりました。6 月は「女性の一生を医療を通じて見守っていくのが産婦人科医の役割」ということで「女性の健康セミナー」と名づけられています。学会理事たちの入念な話し合いの末、今年のテーマは産科救急(癒着胎盤の管理)となりました。

2015 年の国連ミレニアム開発目標に関する評価では妊産婦死亡率を下げたカンボジアですが、まだまだ妊娠出産で死亡する女性が多く(出生 100,000 あたり 161 人(WHO2015))、ちょうど日本の昭和 20 年代と同じくらいです。自宅出産から病院での出産が増えるとともに帝王切開が増える中、過去に帝王切開をした女性の癒着胎盤も増加し、対応に苦慮しているという実感からテーマが選ばれました。

全国から学会員 179 名が参加、JSOG(日本産科婦人科学会)・フランスの大学と 2 名の外国人の講演の後は首都や地方病院からカンボジア人たちが自らの経験を発表し、活発な質疑応答が行われました。最後に「癒着胎盤管理の標準プロトコールが必要」ということになり、セミナー後の理事会では「プロトコール作成委員会」を立ち上げるので JSOG による技術面での助言がほしいとのリクエストが出ています。

子宮頸癌にとどまらず、カンボジアの産婦人科診療の課題解決にむけて、JSOG をお手本に学術団体として成長したいという学会理事たちの強い意志が現れています。



(写真)女性の健康セミナー開会式



(写真)学会員 179 名が参加



(写真)講演発表者との集合写真



(写真)カンボジア人医師による発表

## カンボジア子宮頸がんプロジェクトマネージャー

日本産科婦人科学会 (JSOG) 副理事長  
木村 正

### 女性の健康セミナーに参加して

6月16日にプノンペンホテルでカンボジア産婦人科学会 (SCGO) 主催の女性の健康セミナーが開かれ "Placenta Accreta; the severest complication in Obstetrics" という講演をしました。

SCGO 主催の学会でこの数年毎年1回講演をさせてもらっています。最初のころはまるで高校の授業のように皆さんシーンと静まり返り、質問もなく、演題も半分ぐらい企業が絡んだ「？」のつく内容でした。

今回は SCGO の理事たちが自分たちの意見をまとめてテーマを決め、プノンペンの基幹病院からの症例報告もありました。3年前ぐらいからか、講演のあとではにかみながら質問する先生が出始め、今では堂々と自分の考えや経験、読んだ論文も含めて英語で質問される先生が増えてきました。時間を気にせず質問が出尽くすまで質疑応答があり、和やかに会が進行していました。

何と言っても今年は参加費 25 ドルを参加者全員から徴収したことがトピックです。今まで、学会は支援団体から交通費をもらい、昼ごはんもタダで食べて参加するものだったのが、今回から自分でカネを払い、情報を取りに行く場所が変わりました。もうすぐ学会が自分たちも発表して議論する場になってくだろうと SCGO の発展を楽しみにしています。



(写真) 基調講演を行う木村副理事長



(写真) 講演後の質問にも応答



(写真) カナール学会長より感謝状贈呈

## 初めての子宮頸がん検診に向けての検診準備

昨年より準備を行ってきた工場での子宮頸がん検診本番にむけて、検診前日6月17日にプノンペン経済特区の事務局内多目的室にて機材を設営し、検診の流れを確認しました。

布を被せたパーテーションで区切った2箇所の検診ベッドを設置、揃えた機材を設置した後は、阪埜幹事長が紹介されたバーコードによる検体管理システムのチェックも含め、受診工員の流れ「問診→IC取得→検体ラベル発行→内診→健康教育を行ってきた助産師による質問受付」と一つ一つシュミレーションを行い確認しました。

また、日本大学：川名教授の模擬検体提供と、藤田医師の指導による HPV テスト臨床検査技師トレーニングも事前に行われ、検診の準備は万端です。

～いよいよ明日は検診本番です。検診の様子は7月号のニュースターに掲載いたします～



(写真) 検診ベッドを組み立て機材を設置



(写真) 2箇所の検診ブースが完成しました



(写真) 医師、看護師も一緒に設営



(写真)国立母子保健センター内検査室での HPV テストキットの練習風景

### ～ミニミニコラム～

6月には6名の医師がカンボジアへ派遣され、女性健康セミナー、初めての工場での子宮頸がん検診と、このプロジェクトの大きなイベントが行われました。

チームワークが大事なこのプロジェクト。カンボジア人医師とのクメール料理食事会やカンボジア伝統舞踊鑑賞を通じて、更にお互いの文化に触れることにより相互理解のよい機会となりました。



(写真) クメール料理を囲んで交流



(写真) 数種類の伝統舞踊を鑑賞

### プロジェクトを取り巻く動き

- 6/12-6/19: 松本安代医師カンボジア派遣
- 6/13-6/20: 藤田則子医師カンボジア派遣
- 6/15-6/18: 木村正副理事長カンボジア派遣
- 6/15-6/18: 阪埜浩司幹事長カンボジア派遣
- 6/15: カンボジア産婦人科学会理事会・実行部隊会議
- 6/16: 女性の健康セミナー(木村副理事講演)
- 6/16-6/19: 野上侑哉医師カンボジア派遣
- 6/17: カンボジア産婦人科学会理事会
- 6/17: 子宮頸がん検診準備
- 6/17-6/20: 西野るり子医師カンボジア派遣
- 6/18: プノンペン経済特区にて初の子宮頸がん検診を実施
- 6/20: HPV 検査施行